

## ひとりにもなれる（ひとつにもなれる）

2021・10・27 重枝 一郎

### 「ひとり」＝主体性・多様性 「ひとつ」＝協働性・一体感

家庭学習習慣の定着は、学校教育の大きな課題の一つと言われている。生徒が家で机に向かえるように先生方はさまざまな指導をしている。しかし、先生や友だちがいる環境なら勉強はできるけど、家でひとりでは勉強できない生徒は多いようである。

ひとりで学ぶためには、目標・動機付け・学習方略の3つの要素がどれだけ確立しているかにあると言われる。このことを「自学」といい、主体性が問われる。

自分はこうなりたいという目標があっても、目標に向かって行動する動機付けがなければ勉強しないし、動機付けをされていてもどうやっての方略がなければ勉強のしようがない。ひとりで学べなくても学校でみんなとなら学べるのは、確たる動機付けがなくても友だちが勉強している教室の雰囲気があったり、先生がリードしてくれたりするからである。とにかく外発的にしろ、内発的にしろ、勉強したいという動機付けが弱いのである。または勉強方法がわからないために、家でひとりで勉強できないのである。

では、家で宿題は取り組むけど、それ以外の勉強はしないという生徒についてはどうだろうか。宿題以外にも自ら学習するのは、学びに対して何らかの動機付けがあるからである。この動機付けには自己効力感（自分はできると感じる）があることがカギになる。この自己効力感、小さくてもいいので、成功体験が必要になる。勉強したら結果が出たという経験である。これは、誰でも簡単に体験することができる。難しいのは、それを積み上げていくことである。では、継続するには何が大切になるだろうか。

最も大切なのは『メタ認知能力』である。メタ認知とは、自分の思考や行動を客観的に把握し、認識することである。これがあれば、学び続ける力になっていく。この『メタ認知能力』は小学校高学年から中学校の時期が高まりやすいことがわかっている。だから、中学校に入ると定期テストが行う。定期テストは、振り返り活動がやりやすく、『メタ認知能力』を高めやすい取組だからである。ただ、振り返りの質は大切になる。なぜ間違えたのかについて、例えば、「計算ミスで次は間違えないようにします」ではダメで、必ず学習方略につながることでなくてはならない。英単語や漢字を覚える効果的な方法や復習しやすいノートの取り方、また、集中力を高める工夫や気持ちの切り替え方など具体的な振り返りでなくては『メタ認知能力』を高めることにはならないのである。メタ認知の過程では他者を見ることも多くの気づきが得られる。友だちがどんな目標をもっているのか、どんな方法で勉強しているのか、中高生になるとそういった影響が高くなる。これが「ひとりにもなれる」という本質的な意味になる。

そして、「ひとりにもなれる」つまり、ひとりで学べる生徒は、前述したように他者からの気づきを得ようとするから、実は仲間と学び合える生徒にもなる。これが「ひとつにもなれる」ということである。

私は、入学式でも始業式でもこの「ひとりにもなれる ひとつにもなれる」という言葉を発信している。この言葉の意味を深く考え、今後のカリキュラムに反映していくべきではないかと考えている。

やはり、自学できる生徒の育成は私たちの目標になる。そのために、生徒の「メタ認知能力」を高めていかなくてはならない。私は、朝課外をどうするか、土曜授業をどうするか、スタディーサプリ、新カリ等についても、このことに関連付けてほしい。

# 教師にもなれる

福岡女学院大学の本年度の公立学校教員採用試験結果

2021年10月22日(金)現在

